

近年の地震災害 東日本大震災

被害の状況

平成23(2011)年3月11日、三陸沖を震源とする国内観測史上最大の地震が発生しました。また、地震に伴い、福島県や宮城県、岩手県などで非常に高い津波を観測しました。この地震により、多数の死者・行方不明者が発生するなど、甚大な被害が生じました。

栃木市では最大震度5強を観測しました。栃木県内では地震の揺れによる土砂災害や地盤の液状化も発生しました。

栃木市内の被害

- 負傷者 2 人
- 建物半壊 1 棟  
一部損壊 1,400 棟
- 停電 33,000 軒

岩手県野田村



岩手県山田町



出典：東北地方整備局

教訓（帰宅困難者）

東日本大震災では、震災の影響で交通機関が不通となったために通常の交通手段によって帰宅することのできない帰宅困難者が多数発生しました。

勤務先や学校から徒歩で帰宅することを想定し、日頃から準備をしておきましょう。ただし、大規模な災害時には安全確保のため、むやみに移動を開始しないことも重要です。

勤務先や学校に防災グッズを用意する

ラジオ、防災用ヘルメット、スニーカー、携帯食料、懐中電灯、軍手、防災ハザードマップ、寒暖対策用品など。

帰宅ルートを考える

災害の状況によっては、道路が通行不能になる場合もあるので、複数の帰宅ルートを決めておくといでしょう。

家族との連絡方法を決めておく

地震が発生すると、家族や親類とは簡単に連絡をとることができません。事前に以下のような項目に関して、家族全員で確認しておくことが重要です。

- 災害時の安否確認の方法
- 家族の集合場所
- 徒歩帰宅する場合のルート



教訓（流言・デマ）

東日本大震災では、物資の配布状況や電力の不足、放射性物質に関する根拠のない情報がインターネット上で発生し、拡散されました。

災害発生時には、栃木市や消防、警察、メディアなどから正しい情報を入手し、デマに惑わされないようにしましょう。

確認のポイント

- 複数の情報を読み比べる  
インターネットで検索し、複数の情報を読み比べましょう。本や新聞など、ネット以外で調べることもお勧めです。
- 情報の発信元を確かめる  
発信元が明らかであっても、信頼できる人なのか、信頼できるwebサイトなのかを確認しましょう。
- オリジナルの情報を確認する  
その情報が引用や伝聞だった場合は、元になったオリジナルの情報を探して確かめてみましょう。
- いつ書かれた情報が確かめる  
元の情報が古いものだった場合、現在とは状況が異なるかもしれないので、注意しましょう。

震度と被害のイメージ

4



震度 4

- ほとんどの人が驚く。
- 電灯などのつり下げ物は大きく揺れる。
- 座りの悪い置物が、倒れることがある。

6弱



震度 6弱

- 立っていることが困難になる。
- 固定していない家具の大半が移動し、倒れるものもある。ドアが開かなくなることがある。
- 壁のタイルや窓ガラスが破損、落下することがある。
- 耐震性の低い木造建物は、瓦が落下したり、建物が傾いたり、倒れるものもある。

5弱



震度 5弱

- 大半の人が、恐怖を覚え、物につかまりたいと感じる。
- 棚にある食器類や本が落ちることがある。
- 固定していない家具が移動することがあり、不安定なものは倒れることがある。

6強



震度 6強

- はわないと動くことができない。飛ばされることもある。
- 固定していない家具のほとんどが移動し、倒れるものが増える。
- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 大きな地割れが生じたり、大規模な地すべりや山体の崩壊が発生することがある。

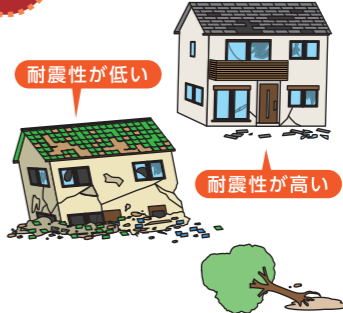
5強



震度 5強

- 物につかまらなさと歩くことが難しい。
- 棚にある食器類や本など、落ちるものが増える。
- 固定していない家具が倒れることがある。
- 補強されていないブロック塀が崩れることがある。

7



震度 7

- 耐震性の低い木造建物は、傾くものや、倒れるものが増える。
- 耐震性の高い木造建物でも、まれに傾くことがある。
- 耐震性の低い鉄筋コンクリート造の建物では、倒れるものが増える。

マグニチュードとは

マグニチュード(M)は、地震そのものの大きさ、つまり地震の規模(エネルギー)を表します。震度は場所ごとにそれぞれ決まりますが、マグニチュードは一つの地震に対して一つの数字しかありません。震源から出てくるエネルギーの大きさによってマグニチュードの数値は決まるので、大きな地震ほど数字が大きくなります。

震度 3

震度 7

